

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370203733		
法人名	株式会社グループホーム長楽園		
事業所名	グループホーム 長楽園		
所在地	岡山県倉敷市菰池3丁目434番地		
自己評価作成日	平成 28 年 9 月 11 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3370203733-008&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成28年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とゆったりとした施設で、介護職員全員が利用者の快適で毎日が過ごせる生活を第一に考え、少しの時間でも利用者とのコミュニケーションを図っており、地域のイベントや行事にも大いに参加しております。施設の周囲、地域住民の様々な方との、ご指導・ご支援・ご協力のおかげにて運営が行われています。停電時や断水時の対応、食べ物備蓄や飲み水など、様々な災害時の対応も整っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域とのつながりを大切にしたい運営を心がけている。それは、運営推進会議への地域からの参加が毎回多いこと・事業所で火災が発生した場合には近隣の家からの支援を受けることを約していること・水害時には事業所を避難場所として提供していること等にあらわれている。また、災害に対する備えにも配慮し、停電に備えた調理器具や備蓄等も完備している。ケアの面では、利用者の様子を家族に知らせる「現状報告」を毎日記述し、月ごとにまとめて請求書と一緒に送る等の工夫をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を理解し、その人らしく生き生きと生活して頂ける様いつも念頭に置いて日々のケアに取り組んでいる。また、家族に対しても、説明しています。	玄関に経営理念を、各ユニットには介護職員としての理念を掲げ、その共有を図っている。また、物事を決定する際には、理念に照らしてどうなのかを検討し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や防災訓練の参加、また、子供の秋祭り神輿の受け入れ、また、小学校の学芸会などにも積極的に参加している。	町内会に加わり、公民館で行われるサロン会・地区のイベント等に利用者も参加している。また、老人会の行事への協力もしている。高校のインターンシップや演奏等のボランティアも受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催される研修会や会合には出来る限り参加するようにしている。認知症についての相談や支援方法等お話ししている。また、現状や困っている事など意見交換し、よりよい介護をする為に、日々努力しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催し、行事・入居等の報告を行い、意見や要望等の助言をいただき運営や現場に活かせるように努めている。	地域包括支援センター・自治会長・老人会・民生委員・消防団部長・愛育委員等が参加し、2ヶ月に1度開催している。内容は利用状況・行事の報告と計画などである。反映するような意見は少ない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者には現状をよく知っていただき細かなことでも積極的に相談し協力をお願いしています。そのうえでより良いケアサービスの向上に努めています。	施設長と管理者が分担し、窓口訪問等により日常的に連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体の拘束は職員全員がよく理解し、見守りを徹底しながら自由に動かれるようケアサービスに取り組んでいる。	職員一人ひとりにハンドブックを配布するとともに、研修参加者の報告書及び資料を回覧して共通理解を図り、拘束の必要のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については全職員認識しています。入浴時等に身体の様子を観察して職員で共有しています。また、問題行動監視を目的とした監視カメラも設置しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者も居られます。対応が必要と思われる入居者がいる場合は、事前に勉強会を開催し全職員の理解を深め、本人の権利を守り支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長と管理者が立ち会い、契約事前に重要事項説明、同意納得後に、契約を締結しています。解約時も同様に行います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて家族代表等に出席して頂き意見や要望を聞き職員全員で検討し実行、実施している。また、御意見箱を設置し意見等あれば利用して頂いている。	利用者とは入浴等の時間に、家族は面会時等に意見を聞くようにしている。把握した意見は買い物代行等に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案ノートを作り意見や提案を書いて頂くようにしている。その後意見交換、検討を行い運営に反映出来るようにしている。	その都度、管理者が一人ひとりに言葉かけをすることで意見の把握に努めている。把握した意見はケアの在り方やリハビリ等に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の人間関係を把握したり、疲労やストレスの要因にも配慮しています。また、職員がやりがいを持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を研修や講習会、また資格取得に参加するようにしている。職員の気力向上になり、仕事の楽しさややりがいにつながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内での勉強会や医療連携会議に参加しており、今後、同業者との交流を行いサービスの質の向上につなげたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご家族、ご本人と面接し生活の状況、心身の状況生活歴等を伺い、ご本人の思い、習慣等把握、周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にご家族、ご本人と面接し不安や要望等を伺い、ご家族の困っていることや要望等しっかり聞きサービス提供に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の思いや、不安なことに対して出来ることは、直ちに実行し、対策を考慮している。また、緊急性や早急な対応が必要な方には、各関連事業所と連携をとり柔軟な対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の気持ちや思い等そつと見守り、日々の生活の中で、出来ることは可能な限り一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時には、居室またホールで本人とゆっくり過ごして頂けるようにしている。また、本人の日頃の状況を報告し、ご家族の思いを尊重した支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方などが訪問あればゆっくりと過ごしていただき、今後も来て頂くように会える機会を作るようにしている。	友人や知人等の面会時には関係の継続ができるよう、言葉かけをしている。また、家族の協力を得て買い物に行ったり、親族に手紙を書く支援等もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの位置を変えたり職員が間に入ったり等くつろいだ時間を作る。また、ひとつのテーブルを囲み普話などやゲームなど行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても家族の安否を確認したり、入院中の方には家族への相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人ゆっくり話し合う時間を作り、会話の中で本人の思いなどを聞き出すような機会を作るようにしている。	入浴やトイレ介助等、利用者と職員が一对一になる時に思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は生活歴等をもとに本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族、に生活歴をお聞きし、安心して生活していただけるよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを考えながら行動を理解し、毎日の生活の中で出来ることは職員と一緒にを行うように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで職員と話し合い本人主体のケアを考えている。また、日々、必要に応じてミーティングをしたり、申し送りノート活用で情報の共有を行っている。	情報を基に管理者が家族と面談し、1ヶ月程度の暫定プランを作成し、家族と連携している。2週ごとのモニタリングを基に看護師も加わって6ヶ月で見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定例の申し送りを通して利用者の体調変化や状況など共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する入居者の様子に最適なケアサービスを心かけている。また、利用者のご家族の状況に応じて通院等必要な支援は、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	二か月に一度の運営推進会議を行い委員から意見を頂く。定期的に図書本等置き、活用しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、受診希望をお伺いし、往診受診か病院受診か、基本的な受診方法の希望を伺っている。協力病院との契約で、緊急時の対応が昼夜スムーズに出来ている。	現在は全ての利用者が、利用開始時に協力医をかかりつけ医としている。隔週の訪問診療と毎週の訪問看護があり、利用者・家族に医療面の安心感を与えている。他科も職員が同行し、家族と連携している。歯科については、希望による往診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護、隔週の往診を受け、体調の変化など密に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側に情報提供書を提出し、定期的に病状を見舞うようにしている。退院時には家族、病院側、職員にて退院後の日常生活の情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を踏まえて話し合い意見や要望を把握し、医療との連携、職員の理解と心のケアについて支援に取り組んでいる。	利用開始時に文書をもとに、主治医・家族を交えて話し合い、事業所として出来ること・出来ないことを伝えている。終末期に向け、チームとして支援する態勢を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による応急処置や救命救急の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災・防火訓練を実施している。職員は建物の構造や備品の場所、連絡の仕方など常に念頭に置いている。	夜間の火災を想定した避難訓練を年2回実施し、そのうち1回は消防署立ち会いのもとで行っている。地域との協力体制も整え、3日間生活できる様に、備蓄も準備している。	

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格に尊厳を持ち、名前の呼び方にも配慮した声かけを行っている。特に、トイレ誘導や入浴介助の際には言葉かけに十分配慮している。	利用者への呼びかけは姓にすること、トイレや入浴の介助時には声をかける位置や声量等に細やかな配慮をしている。	トイレに置いてある下着等への記名については、より細やかな配慮が期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時に着る衣類、入所時に着る衣類等は本人の意思を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活に支障のないように、本人の希望に沿った行動や活動、本人が一番良い状態で生活して頂くよう配慮支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時は自分で衣類を選び身につけて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食品衛生の認識出来る入居者に限り、野菜の下処理、テーブル拭きをして頂いています。また、好みを把握し出来るだけ味付けや量には配慮している。	3食、職員が交代で手作りしている。食材は事業所の畑で栽培した野菜をはじめ、地元の新鮮な物を毎日購入している。職員は利用者に声を掛け合いながら、一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えた献立表に基づいて調理をし、個々の毎日の食事量のチェックと必要な場合は水分量のチェックも行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい歯磨き、義歯の洗浄の履行を行っている。自歯の無い方の口腔ケアもしっかりとうがいを履行。夜間は入れ歯の洗浄も行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導、排泄介助の声かけには十分気をつけている。可能な限りオシメの使用を控えるようにしている。	排泄記録表に基づく言葉かけと誘導により、昼間はトイレで排泄できるよう、支援している。夜間は一人ひとりの状況に応じた対応となっている。パット使用量減の事例もみられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症の方にはかかりつけ医と相談しながら対応、一時的の方には、食べ物の工夫や水分補給、体操や運動などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回、当日に入浴の声かけを行います。体調のこともあり、時間帯は午前・午後とありますが、出来るだけ希望に応じて入浴をして頂いております。羞恥心・恐怖心・安全には十分注意している。	週3回、午前と午後に分かれて入浴している。体調等困難な場合は、手・足浴を実施している。嫌がる人については、言葉かけ等により対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の悪い方や感染症の人は自室にて過ごしていただき、また一日中離床が無理な方には、午後短時間休んで頂き臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に処方薬の変更があれば担当医と相談し申し送りノートにて周知している。一人ひとりの服薬は責任者が、名前と服薬後の確認をして頂くように細心の注意をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る仕事、楽しくやれる仕事や手伝いの役割分担を把握し、声かけを行っている。また、天気の良い日は外の庭園でお茶など飲みながら、気分転換等の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の恐れの間中は外出を避け、病院医療機関も出来るだけ避けて行っている。また、受診などの外出時、ご自宅に寄られたりご家族と協力しながら支援しています。	天気の良い日は、庭やベランダでの外気浴や敷地内の散歩をしている。また、家族の協力を得ながら、外食や買い物、受診を兼ねたドライブ等もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の自己金銭管理は、多々トラブルがあり、現在は、自己管理は困難と思い、ご本人とご家族に相談了承の上で、一括管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出に添って対応しており、電話はご家族の了承のある方は支援を行っています。年賀状は、本人が出来る、書ける能力に応じた賀状をご家族に送ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、居室内を明るい雰囲気にするように配慮している。また、ホール内は広々としており車いすでも、気兼ねなく移動でき、時期、季節に合った花などで季節感を取り入れている。	廊下は車イスが行き交うことが出来るほど広く、利用者の日々のリハビリにも活用している。壁には写真や絵などがさりげなく、掛けられている。また、家族等の面会時には落ち着いて話せるよう、ソファと椅子を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファを置き、廊下にはソファとテーブルを置き、玄関前のベンチなどで気兼ねなくくつろいで頂けるように心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方々には、馴染みや思い出の品等を持ってきていただいております。自宅と同じような安心して過ごせる居室作りを考え実践している。	各室、天井が高く広々とした感じを出している。仏壇や縫いぐるみ等を持ち込んでいる利用者もいる。その人らしきを出せる居室となるよう、家族等と相談しながら利用者の生活しやすい環境作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内には、本人に判りやすいように物を置く。居室、トイレ、洗面、浴室等場所が判るようにネームや目印をつけています。また、危険につながるような物は避け、出来ない事への支援を心掛けています。		